

# 全国各地のお茶産地の紹介

令和5年8月  
農林水産省 農産局



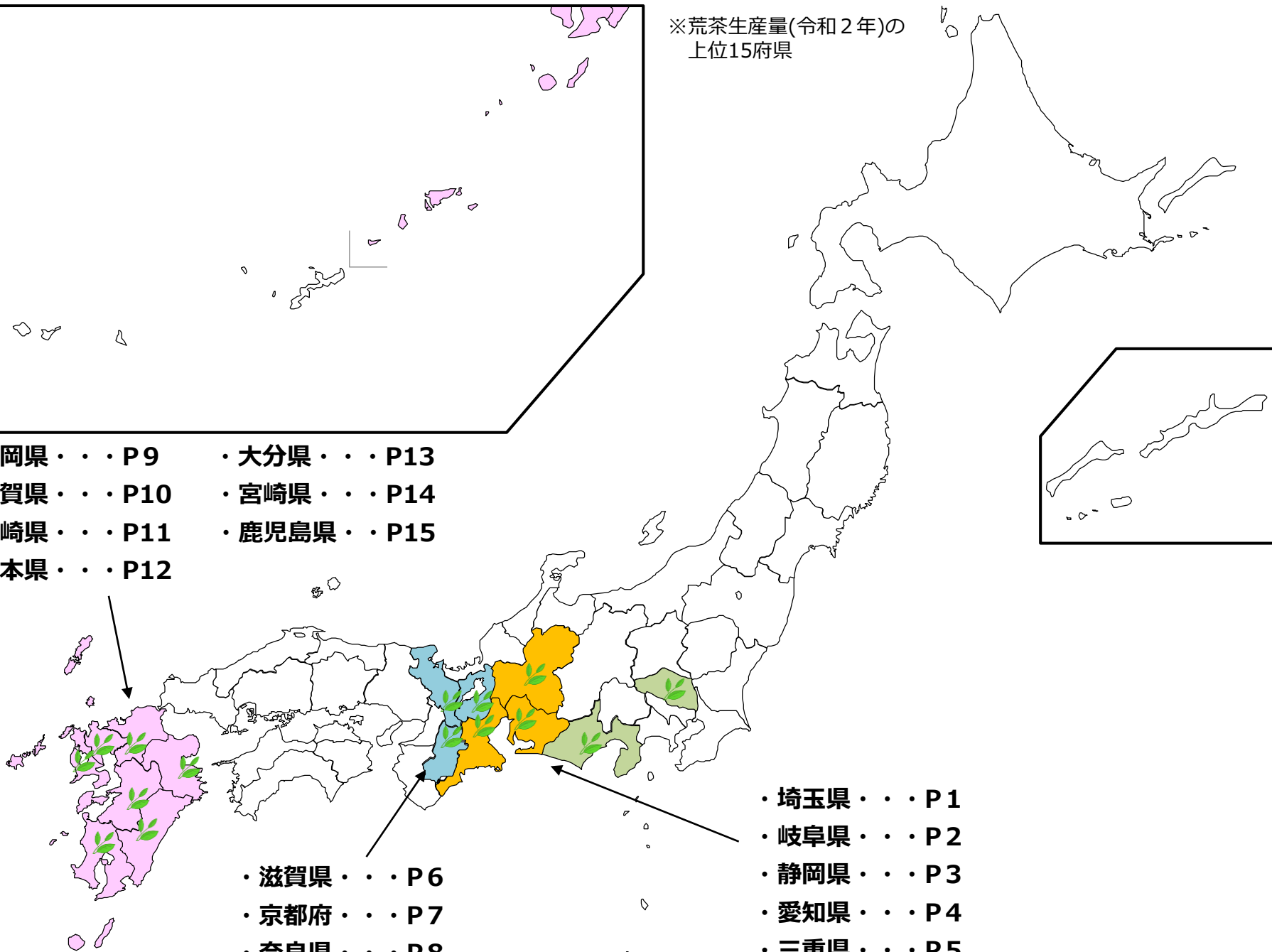
# 全国各地のお茶産地の紹介

※ 荒茶生産量(令和2年)の  
上位15府県

- ・ 福岡県 . . . P9
- ・ 佐賀県 . . . P10
- ・ 長崎県 . . . P11
- ・ 熊本県 . . . P12
- ・ 大分県 . . . P13
- ・ 宮崎県 . . . P14
- ・ 鹿児島県 . . . P15

- ・ 滋賀県 . . . P6
- ・ 京都府 . . . P7
- ・ 奈良県 . . . P8

- ・ 埼玉県 . . . P1
- ・ 岐阜県 . . . P2
- ・ 静岡県 . . . P3
- ・ 愛知県 . . . P4
- ・ 三重県 . . . P5



## お茶の特徴

### ■ 概要

江戸時代中頃から茶栽培が普及。寒い冬を乗り越えることで茶葉の厚さが増し、狭山茶のコク味につながっている。

また、“狭山火入”という独特の仕上げ技術により、甘く濃厚なお茶になる。

### ■ 県内の茶

県西部の入間市、所沢市、狭山市を中心とする狭山丘陵地域のほか、秩父地方でも産地化が進展。



狭山丘陵地域の茶園風景

## 特徴的な取組

### 【茶畑テラス 茶の間】

茶畑の中にウッドデッキテラスを整備し、2023年3月より、狭山茶を五感で堪能できる体験型観光メニューを展開。



テラスで個性豊かな狭山茶を愉しめる

### 【ドリンク茶メーカーとの連携】

茶畑面積約70haを経営する首都圏アグリファーム株式会社（入間市）は、農地中間管理事業を活用して茶畑の集積を進めるとともに、株式会社伊藤園との協働により、ドリンク向け茶葉を安定的に供給。



強い農業づくり総合支援交付金を活用してドリンク茶向け荒茶工場を2022年に整備

## お茶の特徴

### ■ 概要

主に「美濃いび茶」産地と「美濃白川茶」産地に分かれ、冬季に積雪が多い厳しい自然条件を生かし、香り高い茶が生産されている。

### ■ 県内の茶

美濃いび茶：揖斐川沿いに開けた地域で栽培され、乗用型機械による生産性向上等が図られている。

美濃白川茶：山間地域を中心に生産され、手もみ保存会による技の伝承が行われている。



美濃茶の産地風景

## 特徴的な取組

### 【美濃白川茶】

山間地域の適度な湿気と日照条件、昼夜の激しい温度差を生かし、高い香りをもつ茶を生産。



山間地域での特徴ある茶の生産

### 【特徴ある茶の生産・販売】

和紅茶の生産のほか、茶本来の香りを活かしつつ国産素材をプラスしたフレーバーティーを生産・販売。



- ・せん茶に県産の無農薬柚子を加えたお茶
- ・和紅茶に国産カモミールを加えたお茶

## お茶の特徴

### ■ 概要

静岡県は、お茶の生産量・面積ともに日本一の茶どころ。県内には、平坦地から山間地にかけて複数の茶産地が存在し、地域の特色を活かした、煎茶・玉露・抹茶・玉緑茶・ほうじ茶・半発酵茶・発酵茶等、多種多様なお茶が製造されている。



### ■ 県内の茶の例

**本山茶：**山間地特有の爽やかな香りと味わいが特徴。徳川家康公が愛飲していたといわれている。

**川根茶：**山間地斜面に広がる地域で生産され、普通煎茶らしいまみと渋み等のバランスの良さが特徴。

**掛川茶：**豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた地域で生産され、甘みのあるまろやかで濃厚な味わいが特徴。

これらの他、深蒸し菊川茶（GI取得）や朝比奈玉露（日本三大玉露）、牧之原茶（最大産地）等。

## 特徴的な取組

### 【茶草場農法】

茶園の周りにある「茶草場」からスキヤササ等を刈り取り茶園に敷く農法。生物多様性に繋がる循環型伝統的農法が評価され、2013年に世界農業遺産に認定。今年（2023年）で認定10周年。



茶草場農法実践地域の景観

### 【オーガニックビレッジ】

2023年2月に藤枝市、4月に掛川市が「オーガニックビレッジ」を宣言。各市の有機農業実施計画に基づき、有機茶の消費拡大及び有機茶生産量の拡大を目指す。



宣言を行う藤枝市長（左）と掛川市長（右）

### 【世界お茶まつり】

静岡県では、世界に向けてお茶の魅力を発信するお茶の祭典「世界お茶まつり」を開催。2001年から3年に1度開催し、2022年には8回目の祭典が開催された。



世界お茶まつりの様子

## お茶の特徴

### ■ 概要

日本有数のてん茶（抹茶原料）の産地。県内荒茶生産量のうち約7割をてん茶生産量が占める。

### ■ 県内の茶の例

西尾茶：西尾市で主に生産。市内の北西部、矢作川左岸一体にある小高い丘陵地「稲荷山」に茶畑が広がる。西尾市で生産されるお茶のほとんどが抹茶の原材料となるてん茶であり、全国でも珍しい抹茶に特化した茶どころ。



稲荷山に広がる茶園風景

## 特徴的な取組



### 【西尾の抹茶】

西尾市と周辺地域の特産である「西尾の抹茶」が特許庁の地域ブランド（地域団体商標登録制度）に認定。

西尾の抹茶は、西尾市・安城市で生産された茶葉を同地域においててん茶加工・仕上げ精製し、茶臼挽きした抹茶と規定。



### 【有機茶栽培の取組】

てん茶生産量が県内2位の豊田市で有機栽培の抹茶などを生産する「いしかわ製茶」では、家族経営で加工・販売に加え、輸出にも取り組む。

## お茶の特徴

### ■ 概要

三重県は、栽培面積・生産量ともに全国第3位のシェアを誇るお茶どころ。

南北に細長い地形であるが、県下の大半が、温暖で降水量も豊富な茶の生育適地であり、北勢地域の「かぶせ茶」、南勢地域の「深蒸し煎茶」など、各地の地形や、気候の特徴を生かしたお茶が生産されている。



### ■ 県内の茶

伊勢茶：二番茶までの刈り取りのため、葉肉が厚く、滋味濃厚で、三煎目まで味や香りを楽しめる。



丘陵地に広がる茶園

## 特徴的な取組



### 【かぶせ茶】

三重県はかぶせ茶の生産が全国一位。  
黒いネットなどで茶の樹を覆い、直射日光を遮って柔らかな葉に育てた高級茶で、渋みが抑えられるため、まろやかな味わいが特徴。



### 【抹茶（てん茶）の大規模生産】

鈴鹿山脈の麓は、豊富な伏流水、扇状地で水はけの良い土壌といった非常にお茶づくりに適した地区。(有)萩村製茶は、抹茶の原料となるてん茶を主力に、大規模な生産を行う。



## お茶の特徴

### ■ 概要

滋賀県では、県内茶の約9割が甲賀市で栽培されており、甲賀市には、土山茶及び朝宮茶の2つの産地がある。

また、最澄が唐から持ち帰ったお茶の種子を比叡山麓の日吉大社あたりに撒いたのが始まりとされ、「日本の茶の発祥地」とされている。

### ■ 県内の茶の例

- ・土山茶：主に、甲賀市土山町で栽培。かぶせ茶が盛ん。
- ・朝宮茶：主に、甲賀市信楽町で栽培。日本五大銘茶の産地の1つ。山間傾斜地で栽培され、独特の香気を醸す。
- ・政所茶：東近江市政所地域で栽培。厳しい気象条件下で栽培され、香りがよく苦みの中にほのかな甘みがある。
- ・日野北山茶：かぶせ茶に特色があり、無農薬栽培による差別化を図っている。



## 特徴的な取組



### 【土山茶】

甲賀市は4月にオーガニックビレッジ宣言を行い、有機農業実施計画に基づき、有機茶の生産、消費の拡大に向けた取組を強化。

県内最大の経営規模で土山茶を生産している（農）グリーンティ土山では、有機栽培や輸出、てん茶生産等需要に応じた多様な取組を展開。

左：事業を活用してん茶加工施設導入  
右：規模拡大と若者の雇用を目指す



### 【政所茶】

産地全体で無農薬栽培。全国でも希少となった在来種を多く残しており、愛知川源流域ならではの自然環境を守り生かす生産方法を長年継続。

## お茶の特徴

### ■ 概要

鎌倉時代、宋から帰った栄西が茶の習慣を一般に広め、明恵上人が栴尾の高山寺や宇治で栽培を始めた。室町から安土桃山時代にかけて、闘茶、わび茶などが登場、「覆い下栽培」も生み出され、千利休などにより「茶の湯」が大成した。

江戸時代には「宇治製法」により「煎茶」、「玉露」が生み出され、「宇治茶」の製法・評判は全国に広まった。

歴史的・文化的な背景から、現在も、茶室や茶園などが多く残されており、宇治茶・宇治抹茶の知名度は高く、てん茶の生産割合が高い。



石寺の茶畑 (京都府和束町)



宇治新茶 八十八夜茶摘みの集い

### ■ 府内の茶

宇治茶：京都府・奈良県・滋賀県・三重県の4府県産茶を京都府内業者が京都府内において宇治地域に由来する製法により仕上加工した緑茶。

## 特徴的な取組

### 【茶育の推進】

- ・宇治市では、小中学校における総合的な学習の時間を活用した宇治茶の教育を実施。
- ・全22の小学校のうち20校(2022.6現在)には、蛇口からお茶が出る「お茶飲み場」が設置されており、宇治市民は、幼い頃から身近に茶があることが当たり前の環境で育っている。



←「宇治学」初年度(小学3年生)の副読本は、『宇治茶のステキをつたえよう』



お茶の出る蛇口 →

### 【宇治玉露ドリンク「玉兎」】

- ・「本物のお茶の味を伝えたい」、「日本料理を引き立てるソフトドリンクがほしい」という宇治茶業界、料理界の思いから、京都府、京都府茶業会議所、京都府茶協同組合等が共同開発。



- ・3年の年月をかけ、試行錯誤を繰り返し、淹れたての玉露の旨味と極上の覆い香をもつボトルティーが誕生した。



# 奈良県

## お茶の特徴

### ■ 概要

大同元年(806年)、唐から茶の種子を持ち帰った空海(弘法大師)が、その種子を高弟・堅恵こうてい けんねに与え、仏隆寺(宇陀市)に蒔いたのが、大和茶栽培の始まりとされている。

以来、日本でも有数の茶の産地として発展。

### ■ 県内の茶

大和茶：標高200～500mの高冷地で、茶が育つギリギリの環境で栽培されるため、茶芽がじっくり生育し、朝晩の寒暖差、豊富な水源と肥沃な大地に育まれるため、茶葉の香りが高く、滋味が濃厚。

奈良県育成品種「やまとみどり」：唯一の県育成品種。  
カテキンなどの機能性成分が多く含まれ、耐寒性があり、極晩生。



大和茶



やまとみどり かぶせ茶の収穫



大和茶は、奈良県の北西部、大和高原地域を中心に、栽培されている。

## 特徴的な取組

【奈良県・JAならけんの取組】

・JAならけんは、県内の茶農家が生産した荒茶を集約し、茶流通業者に販売している。年間の取扱量は約1,400 tで、県全体の8割以上。ほかに、グループの大和茶販売株式会社を通じて、大和茶ペットボトルの販売なども行っている。

・県の大和茶研究センターでは、40年以上にわたって小学生を中心に社会見学・遠足を受け入れている(平成30年度30校 2,044人)。



大和茶園見学(大和茶研究センター)

・米国、EU、台湾で広がる日本茶需要に応えるため、GAP認証の取得支援など、輸出相手国ごとの基準をクリアするための生産方法確立に向けて、県・JAが連携して取り組んでいる。

## お茶の特徴

### ■ 概要

県南部の八女市を中心とした各地域で煎茶、玉露、かぶせ茶等、様々なお茶が生産されている。

室町時代に明（中国）で修行を終えた栄林禅師が、持ち帰った茶の種子を与え製茶技法とともに一般に伝え広めたことが「八女茶」のはじまりとされ、2023年で600年を迎える。



### ■ 県内の茶

八女茶：あまくてコクがあり旨味の強さが特徴。

品質を重視した「芽重型」（芽数を少なくし枝葉を大きくしたもの）として栽培。

#### \* 八女伝統本玉露（※）

八女市及び周辺市町の中山間地域において、昔ながらの稲わらにより被覆し、生葉を手摘みにより収穫。うまみ成分のテアニンが豊富で、まろやかでコクがある。

※2015年12月にGIに登録

## 特徴的な取組

【第77回全国お茶まつり 福岡大会】



2023 8/22日 -8/25日 全国茶品評会出品審査会 会場：八女市ふるさと産業センター（福岡県八女市）	2023 9/21日 -9/22日 全国茶品評会出品茶入札販売会 会場：マリアスホール（福岡県筑後市）	2023 10/27日 全国茶生産青年茶審査技術競技会 全国茶生産青年茶会合、茶会 会場：（仮）筑後市文化創造センター（福岡県筑後市）	2023 10/28日 -10/29日 お茶の魅力を支八女から。 大会式典・賞状授与式 （お茶の文化館、和喫茶メニュー） 八女茶PRイベント （お茶の文化館、和喫茶メニュー）
--	---	---	--

### 【茶の文化館（八女市星野村）】

伝統本玉露「しずく茶」をはじめ様々なお茶を楽しむことができるだけでなく、お茶に関する体験も可能。展示エリアやお土産コーナーも設置。



左から：茶の文化館内呈茶ホール、和喫茶メニュー「玉露しずく茶 和菓子付き」、体験メニュー（抹茶碾き）

## お茶の特徴

### ■ 概要

県西部の嬉野市を中心にお茶を生産。  
江戸時代の1760年には、オランダ商社により長崎港から初めての輸出が行われたとされている。

### ■ 県内の茶の例

うれしの茶：茶葉の形状が勾玉状に丸い玉緑茶（グリ茶）で、一枚一枚が丸く緑茶の艶が深く、香りや旨みが強いのが特徴。

2002年に、佐賀県または長崎県において生産された原料茶を100%使用し仕上げ加工した茶を統一銘柄「うれしの茶（嬉野茶）」とした。



\* 蒸し製玉緑茶  
蒸気で蒸したもの。味はさわやかな香りでコクのあるうまみが特徴。



\* 釜炒り茶  
鉄釜で炒ったもの。香ばしくのど越しがさっぱりしている。

## 特徴的な取組



【嬉野 八十八（やどや）】

JR九州ホテルマネジメント（株）にて建設中の湯宿。嬉野茶の魅力と嬉野温泉、嬉野を核とした佐賀の食、工芸、風土等地域の価値を活かす湯宿を目指す。2023年10月1日開業予定。



「八十八」には、ティーセレモニールームや、お茶を楽しむバー等を設置し、嬉野茶の魅力を感じるものとしている。

## お茶の特徴

### ■ 概要

東彼杵町で生産される「そのぎ茶」や、五島市で生産されるスッキリした飲み口の「五島茶」等の多様なお茶が存在。

### ■ 県内の茶の例

そのぎ茶：長崎県を代表する銘柄。蒸し製玉緑茶でふくよかな味と香りが自慢。

全国茶品評会蒸し製玉緑茶部門で4年連続農林水産大臣賞を受賞。日本茶AWARDでは、日本茶大賞（最高賞）を3回受賞。



東彼杵町 そのぎ茶園

## 特徴的な取組



### 【そのぎ茶】

（株）FORTHEESは、そのぎ茶農家4人グループで設立。有機質肥料による茶生産と輸出向け抹茶生産へ参入。新たな茶の可能性を追求するべく、てん茶工場を整備。

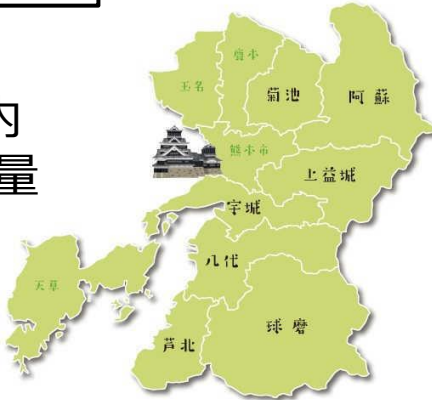


そのぎ抹茶を活用した商品

## お茶の特徴

### ■ 概要

古くから蒸し製玉緑茶の生産が県内一円で行われている。玉緑茶の生産量は全国屈指。



### ■ 県内の茶

くまもと茶：煎茶、蒸し製玉緑茶及び釜炒り茶を主に生産。球磨地方が県内最大の茶産地で、大規模茶園を形成。

また、菊池地方や芦北地方は、標高の高さを活かし減農薬栽培が行われている。上益城地方では無農薬栽培や有機茶栽培も行われている。



平坦地の大規模茶園（芦北地域）

## 特徴的な取組



【上益城：お茶の富澤。の取組】

- ・約5haの有機（玉緑茶中心）園を管理。抹茶、玉露にも注力。
- ・生産部門のほか、販売部門を設置し、カフェと直営店（阿蘇くまもと空港内）を運営。

上：有機茶園

下：カフェメニュー、空港内直営店

## お茶の特徴

### ■ 概要

県全体に幅広く茶産地が分布し、大部分が小規模な自園自製で経営。

平成18年度から大手緑茶飲料メーカーと関係各市との間で茶産地育成協定を締結し、平成25年度までに100haの専用茶園を造成。現在は合計200haの茶園造成を目指して産地づくりを進めている。

### ■ 県内の茶の例

主な産地は、中津市、佐伯市、臼杵市、豊後大野市などで、煎茶「きつき茶」「耶馬溪茶」「豊後大野茶」、蒸し製玉緑茶「吉四六茶」、釜炒り製玉緑茶「因尾茶」がある。



緑茶飲料用専用茶園

## 特徴的な取組



### 【茶産地育成事業】

株式会社伊藤園と県・市等の協働により、荒廃農地等で大規模茶園を造成。茶葉は、全量伊藤園が買い取り、技術・ノウハウも支援。



### 【臼杵市】

臼杵市（旧野津町）では茶の有機栽培が盛ん。市内の高橋製茶は、有機JASを取得し、生産・加工・販売まで一貫して実施。お茶カフェもオープン。



## お茶の特徴

### ■ 概要

宮崎県は、茶園面積全国6位、荒茶生産量全国4位の茶産地。

生産地は、沿海から標高700mまで広く分布し、県内全域で煎茶と蒸し製玉緑茶が生産され、一部で碾茶、紅茶も生産されている。

また、西北山間地は全国一の釜炒り茶の産地として知られている。

### ■ 県内の茶の例

みやざき茶：コクのある味とふくよかで高い香りが特徴。

優良早生品種“きらり31”、“はると34”など県が推奨する13品種をはじめ、優れた特徴を持つ多くの品種が栽培され、バラエティに富んでいる。

釜炒り茶：特に、宮崎県西臼杵郡では、年間約200トンが生産され、日本一の生産量を誇る。水色は澄んだ黄金色で、香ばしくすっきりした香り「釜香」が特徴。



## 特徴的な取組

### 【オーガニックティー宮崎 (OTM)】

小浦製茶を代表とする有機茶生産組織。お茶の沢田園と共に、南九州輸出茶コンソーシアムを設立し、輸出向け事業に取り組む。海外では粉末茶の需要が高いことから、モガ茶※の栽培にも力を入れる。

※一般的に、煎茶の製造ラインで製造された揉みこみの少ない茶葉を指す。



小浦製茶の茶畑

### 【高千穂地区農業協同組合】

(釜炒り茶振興会)

高千穂地区の釜炒り茶の認知度向上と魅力発信のため、海外での茶関係イベントへの出展や地域の景観を生かしたティーツーリズムコンテンツを検討。地域の魅力が伝わるパッケージで包装した地域を代表する茶のお土産商品等の開発を行う。



イベントの様子 (左) と新商品パッケージ (右)

## お茶の特徴

### ■ 概要

鹿児島県では、温暖な気候を生かし、他産地に先駆けて新茶を生産。多様な品種の栽培により、様々なニーズに対応。また、有機栽培面積、てん茶生産量が日本一。

### ■ 県内の茶の例

- ・知覧茶：鮮明で濃い緑の旨味に富む味わいのお茶。知名度は全国区。
- ・霧島茶：澄んだ黄緑色の水色とくせのない豊かな香り、心地よい旨味が特徴。また、山間部では有機栽培が盛ん。
- ・志布志茶、有明茶：  
早生から晩生まで多様な品種を栽培。品種を調合することで、色・味・香りのバランスの取れた茶を生産。



知覧茶（南九州市）



霧島茶（霧島市）



志布志茶（志布志市）

## 特徴的な取組



【有限会社西製茶工場】  
法人を中心とした生産者間連携による大規模な有機栽培を実践。



【鹿児島堀口製茶有限会社】  
化学農薬のみに頼らない病害虫防除や、ASIAGAP、FSSC22000の取得等により、安心・安全な茶を国内外に提供。